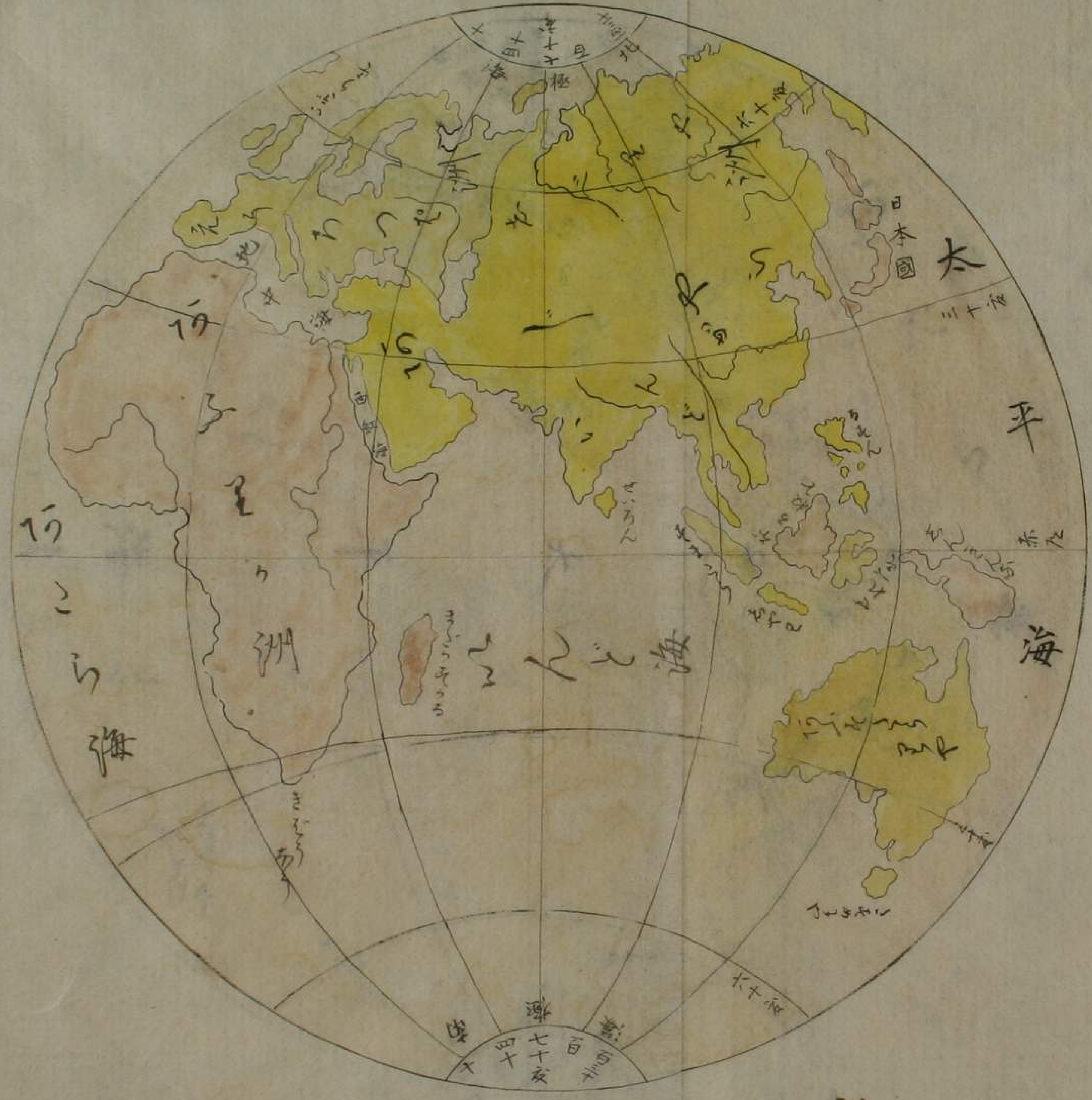
福翁世界國づくし 完

頭書並附録

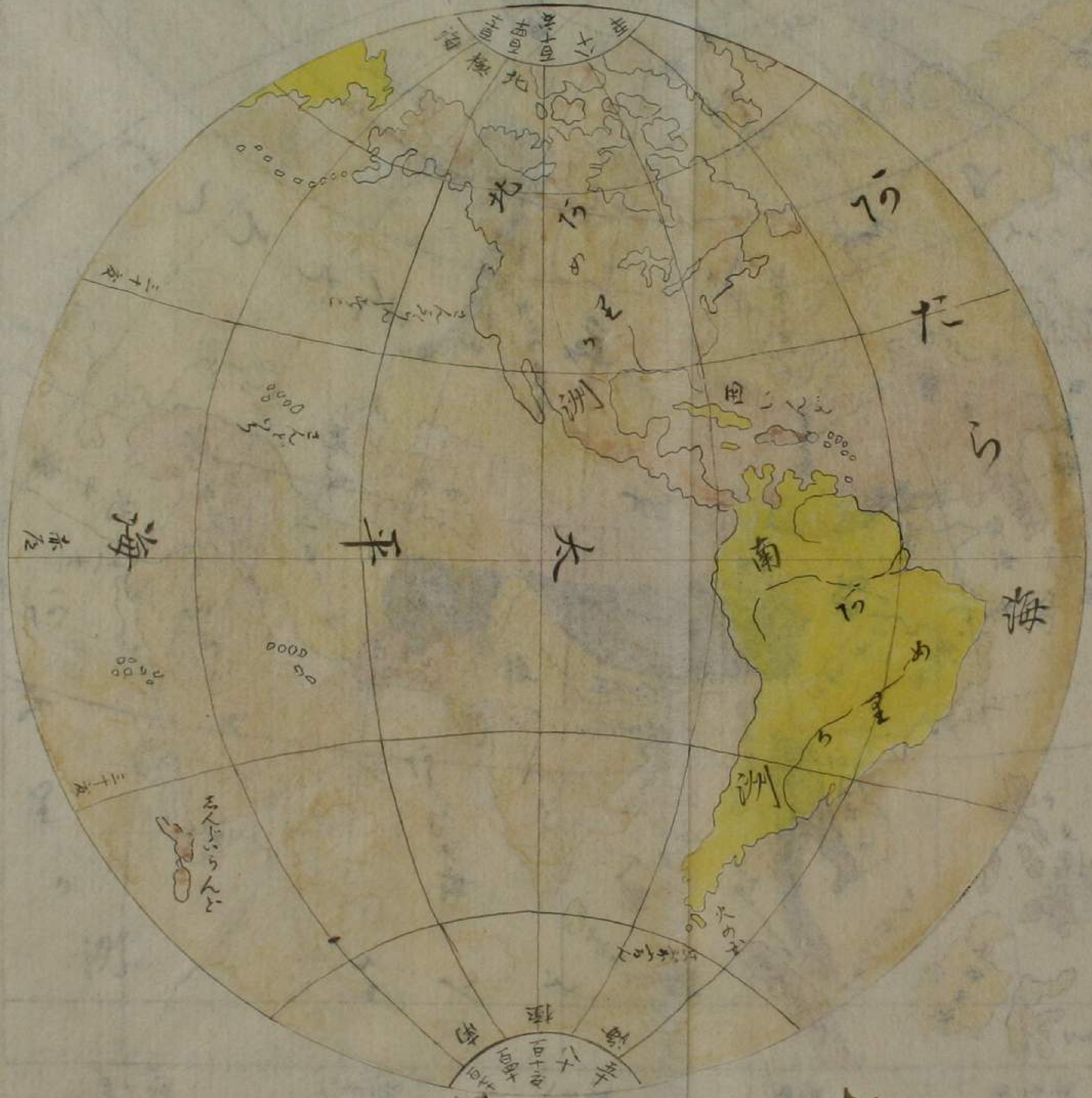
ル 2
1656

1656

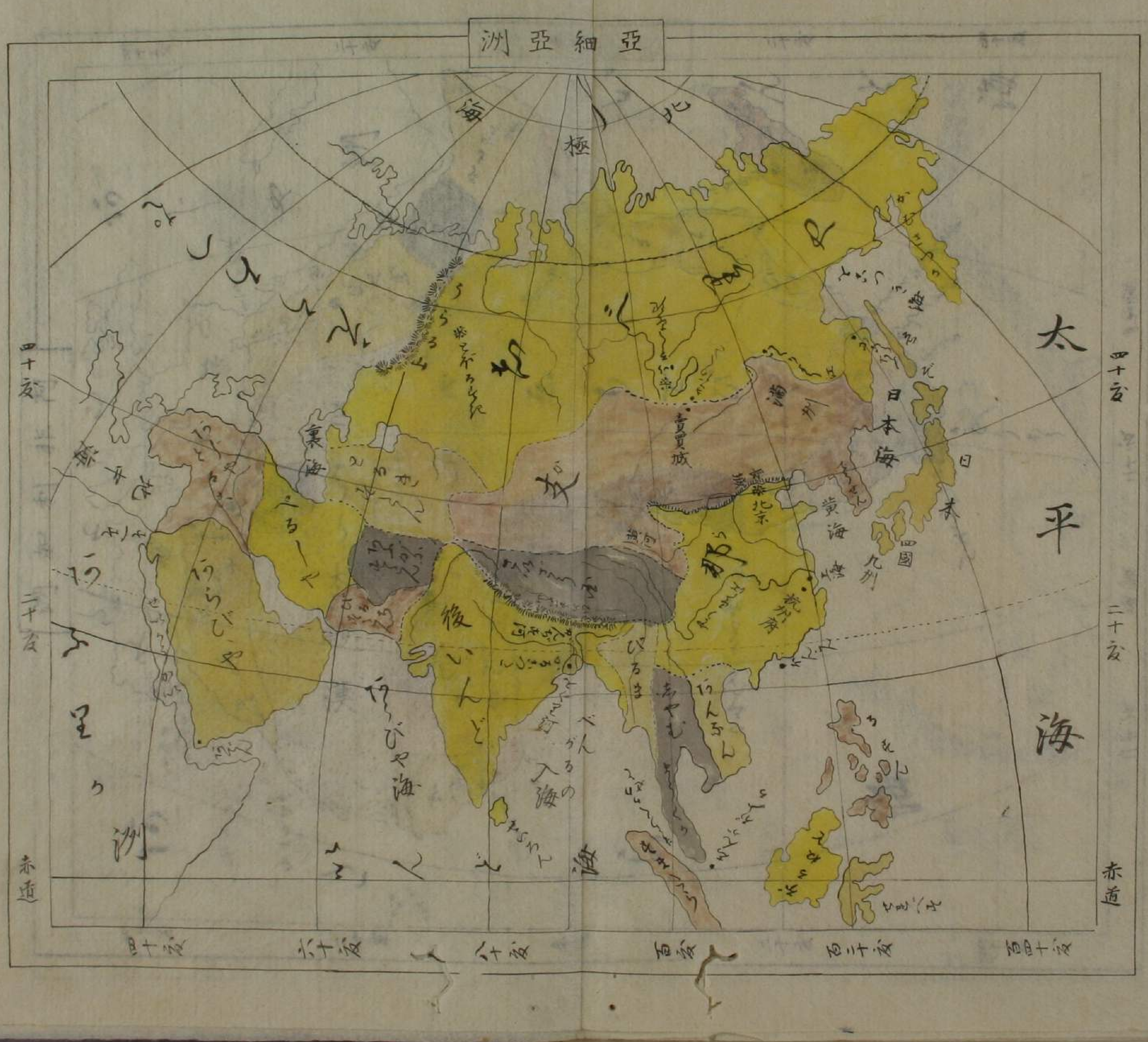
東の半世界



西の半世界

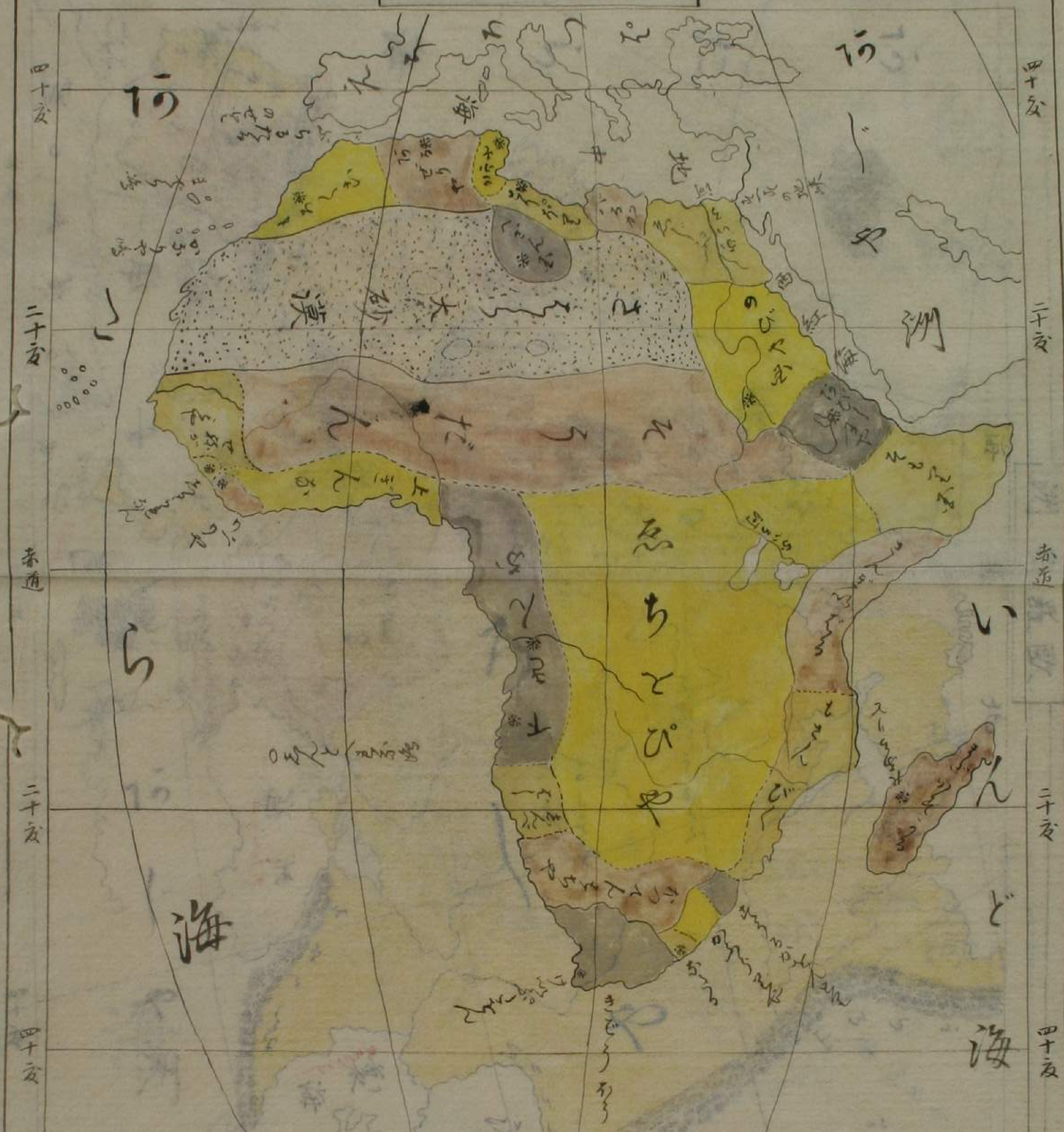


亞細亞洲

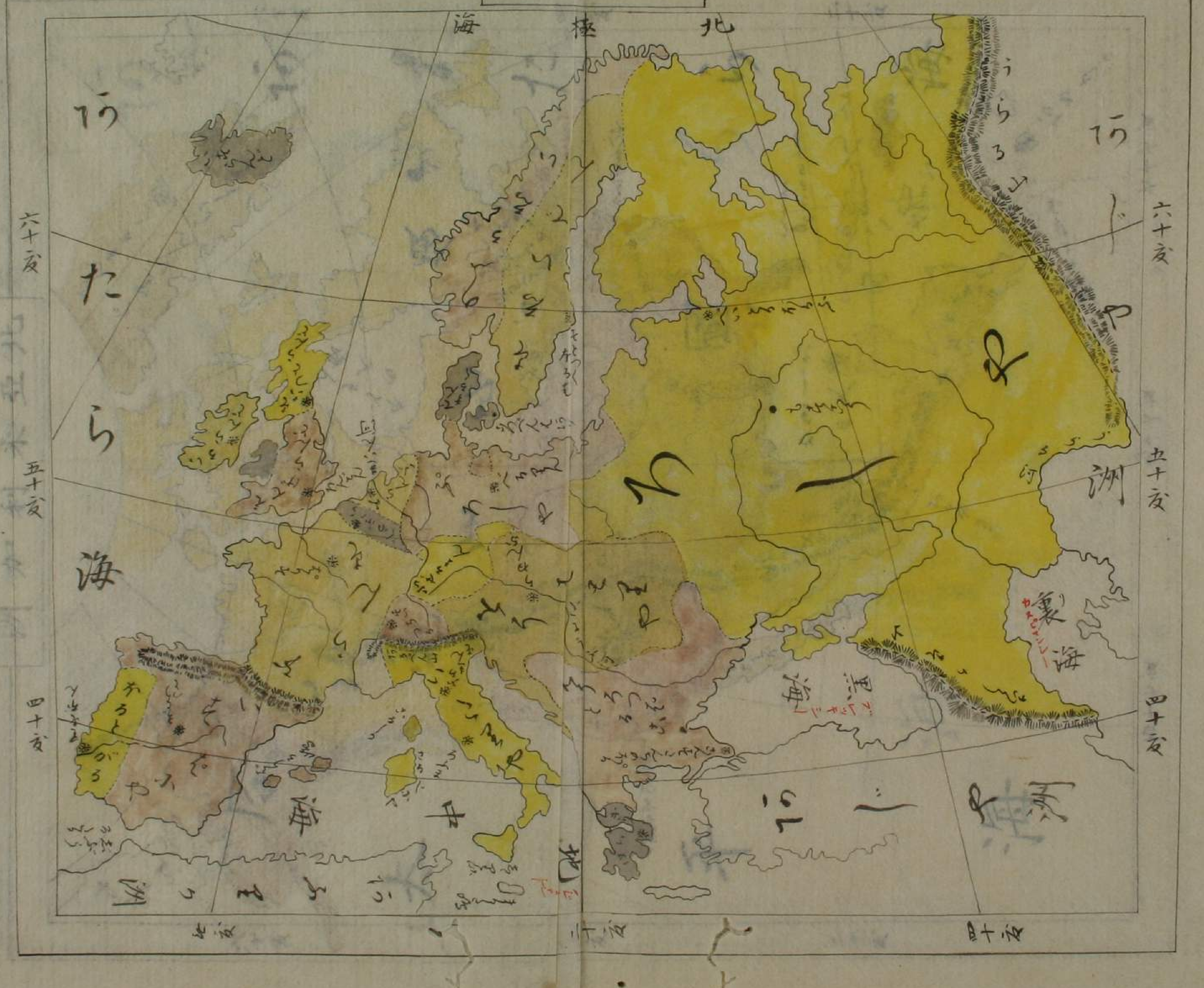


北極海
太平海
日本海
日本
黄海
北京
満州
支那
九州
四國
いんど
あらびや
あらびや海
べんがるの入海
裏海
四十度
二十度
赤道
四十度
六十度
八十度
百度
百二十度
百四十度

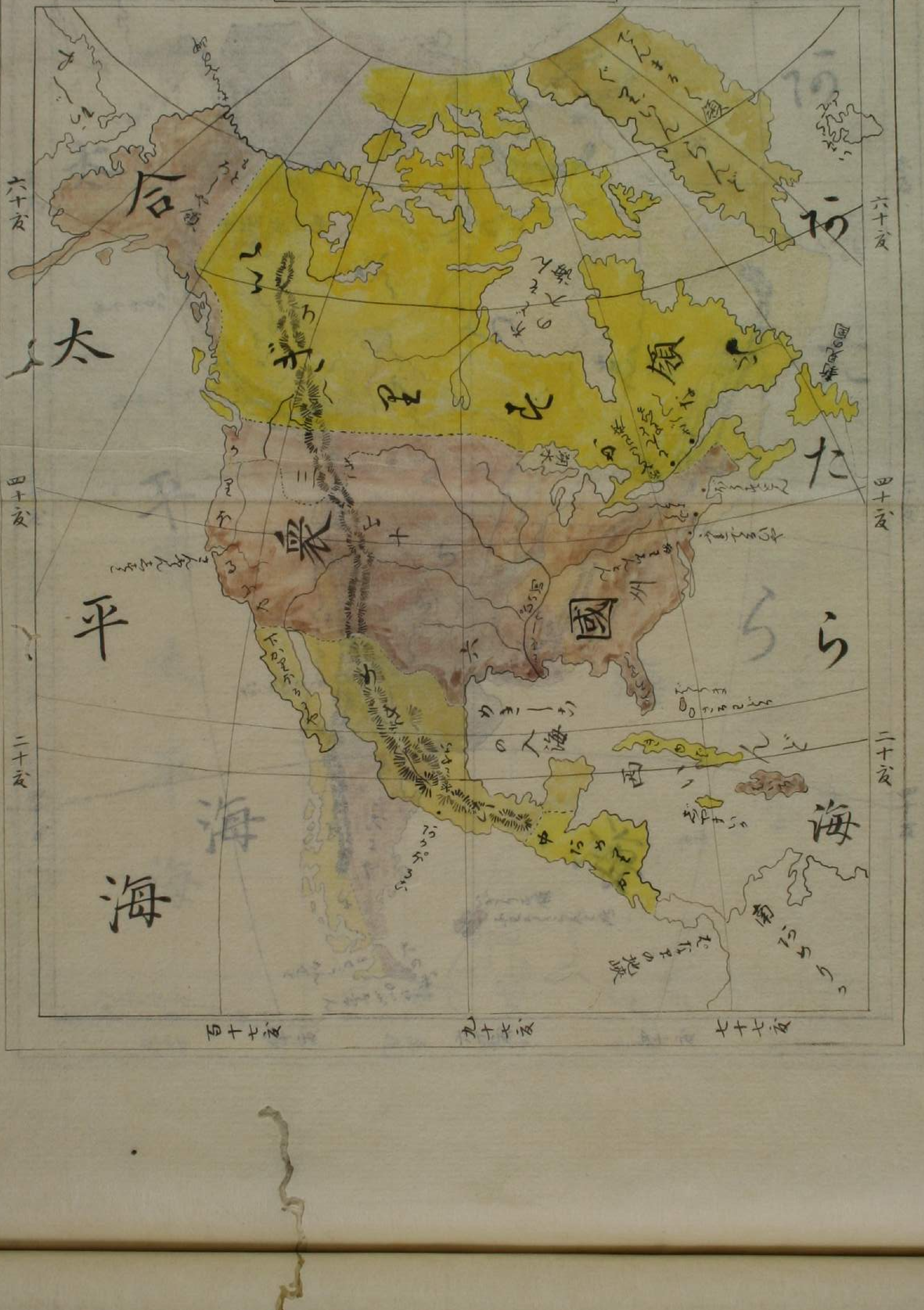
阿非利加洲



歐羅巴洲

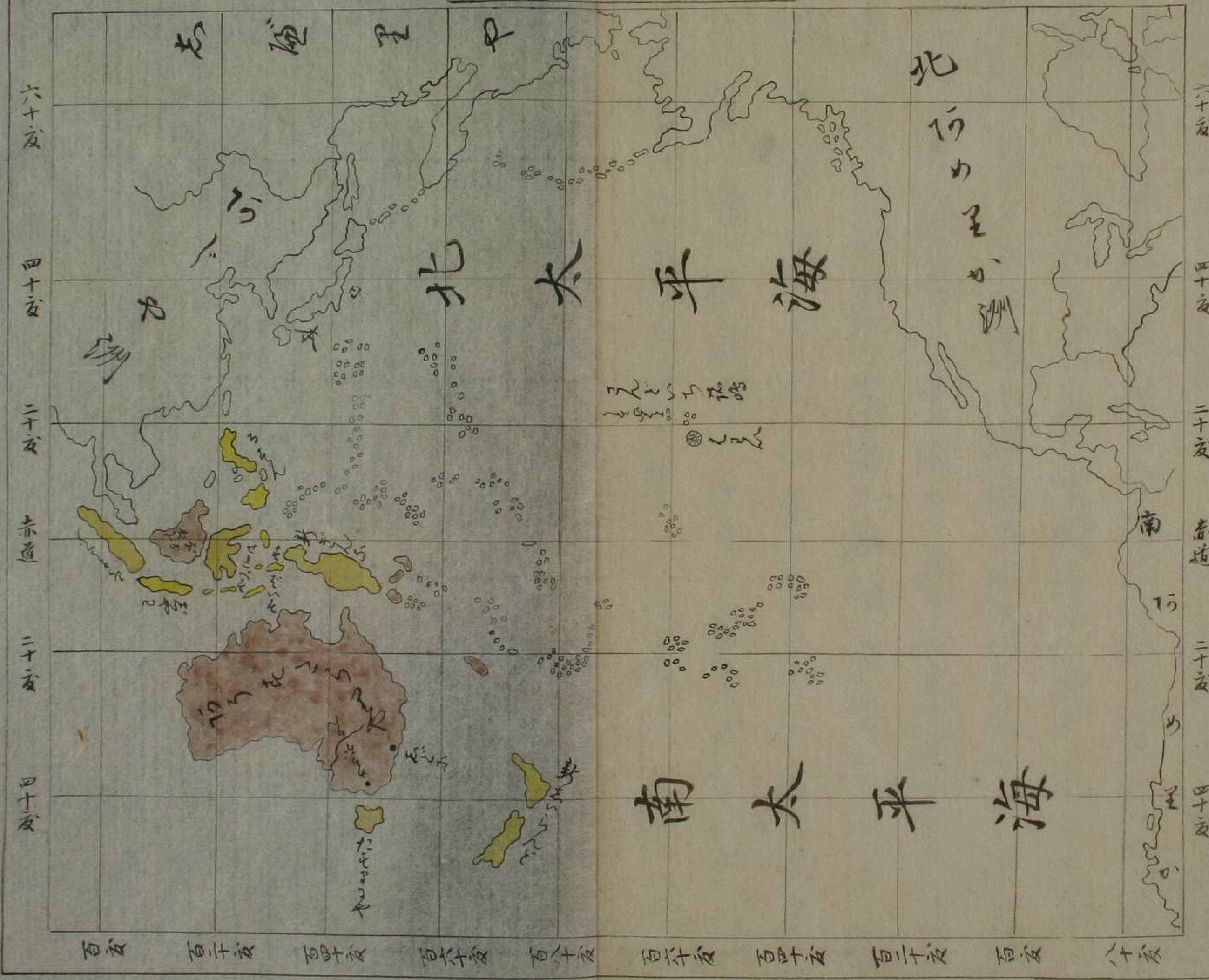


北亞米利加洲



南亞米利加洲

大洋洲



北太平海
南太平海
六十度
四十度
二十度
赤道
二十度
四十度
百度
百二十度
百四十度
百六十度
百八十度
百六十度
百四十度
百二十度
百度
八十度

南太平洋

早稲田大学図書

世界國畫序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑〻災害下ヨリ起ル片ハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則チ天下ノ禍福ハ其源蓋シ池ニアラス國民一般ノ知愚ニ係ルヿ推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國畫ノ著アルモ専ラ児童婦女子ノ輩ヲシテ世界ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ及ヒ合衆國「ニウヨルク」洲ノ士人「ワルプランク」氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ルヿ左ノ如シ

世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知才ヲ誉メ或ハ武将ノ勇膽ヲ稱シ或ハ説客ノ明辯ヲ賛シ字句秀英文章華麗

明治四十一年六月二十二日 市島館長氏寄贈

自カラ人ヲシテ功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ歟カラ
ス然リト雖モ事實天下ノ碑益ヲ謀リ世ノ為メニ功ヲ
成スノ大小如何ヲ論スルトキハ誰カ学校教師ノ右ニ出
ルモノアラン何物カ人民教育ノ重大ナルニ若カン
我合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間ニ小学校
ノ法ヲ設ケ毎戸毎人其教育ヲ被ラサルモノナシ例ヘハ
「ニウヨルク」州ニ於テハ圖州ヲ九千區ニ分ケ毎一區必ス一所
ノ學校ヲ開テ教ヲ授ケリ但シ五十所ノ大學校及ヒ許多ノ
私塾ハ此數ノ外ナリ
此學校ニ出入スル児童ノ數五十萬人ニ下ラス此外上級ノ
學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九十乃至一萬人ノ數アリ

コレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ
或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教校先生ノ凡
俗ト其人品ノ高下ニ在ルヿ知ル可シ豈コレヲ至重ノ任
ト云サル可ケンヤ
近来「ニウヨルク」ニ於テ人物ヲ選挙スルヿアリテ其時入
札ヲ投シタルモノ三十余万人ナリシ（奉行ナドノ選挙ナラン）蓋シ爾
後三十年ノ星霜ヲ過キナハ此人員ノ大半ハ物故シテ
継テ其身分ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當
州内ニ在テ一万人ノ教師ニ随従シ初学入門ノ教ヲ受ル
児童ナラン
我國人衆庶一般相為メニスルノ公法ヲ以テ國體ヲ成シ

其國ニ益アルコト甚タ洪大ナリ然ルニ此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ事ノミナラス他ニ又功德ノ大ナルモノアリ其大ナル者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體裁ヲ寛大ニスト雖𪜈議政其法ヲ巧ニスト雖𪜈治國ノ君子經濟ノ為メニ策畧ヲ運ラスモ盡忠ノ義士報國ノ為メニ身ヲ殉スルモ其國ニ益スル所ノ實功ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功德ニ及ハサルコト遠シ

後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ承ケテ其名其實ニ恥サルモノアラハ此人物ハ必ス母ノ賢德ト知識トニ由テ然ル者ナラン先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習慣ヲ成シ忠孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ万物ノ靈タル責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ

前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此教ニ亜テ功ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナリ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増加スルコト毎年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ去リ小説ニ惑ハスシテ真理ノ趣ヲ解シ其道ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ守リ以テ風化ノ德ヲ盛ニセハ其恩ノ生靈ニ及フ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年己巳八月

福澤諭吉 譯

凡例摘要

一西洋ニハ年号なし其国の宗旨の始りし年を元年と定め明治二年ハ彼千八百六十九年なり

一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億百億と十倍つゝに位を進て計へ上るなり

一英の一里ハ千七百六十「ヤルド」なり一「ヤルド」ハ日本の三尺余なる故英の一里ハ日本の十四町四十間余に当る英の地理の里数ハおしなべて英の一里ハ二千二百廿「ヤルド」に当る即ち南北経度の一度を六十に分ちたる一分の長さなり

一此書ハ日本人も英文を読（よ）を得る和蘭の書をも翻訳せし故地名も蘭人の唱と英人の唱と同じからず依て仮字の相違あるものあり譬へハ昔日蘭書の翻訳多くハ窩々所徳（おけすと）擺錢（はいき）と記したるものを今ハ墺地利（あうすとりや）といひ古の独逸を今ハ日（ぜ）耳曼（るまん）と記すが如きハ事実に於て誤なしといへども唯此書ハ英書に拠り英の唱に従ふもの也

世界人民の事

世界の広さハ英吉利の一里四方を一坪に見て凡二億の坪数あり これを区分けて云ふハ海多して一分ハ陸なり故に人の住む陸の広さハ五千万坪なり 但し英吉利の一里ハ日本の十四町四十間余に当る 世界中の人の数ハ凡千億にして西洋の土風に由て顔色も同じからず智愚も一様ならず其違ひを五種に分ちて世界中に多

其の割左の如し
欧羅巴の人種は色白くして其数凡四億二千萬人
亜細亜の人種は色少し黄にして其数凡四億六千万人
亜米利加の土に住居する人種は色赤くして其数一千万人
阿非利加の人種は色黒くして其数七千万人
大洋州に住居する人は茶色にして其数四千万人

亜細亜州のうちなり

亜細亜の土地の広さは千七百五十万坪人の数六億人世界の中
にて一番の大国なり広き亜細亜の国は人の種類も色も様々なれ
ど常に人の種として其種類最も多し殊にこれを亜細亜人種と
いふ気候も北方しべりやの方は寒く南に至れば赤道
近くは常に熱し寒暖の事も其所によりて異なり

○支那の広さは四百二十万坪人の数四億余都の名を北京といふ世界中の
男子は頭を剃りて後を好みて長く人の如きとして思へる
支那の産物は絹布・木綿・陶器・茶・其外産物甚だ多し殊に
茶は其の国の名産にして毎年外国へ輸出する事凡一億斤に過る
欧羅巴並に亜米利加には茶園なし支那の茶の用を弁ず支那と日本より
り輸出あり
支那は四方を海にて陸は大遠なる所も多く北の方は
南の方杭州府より通州の運河凡そ三百里北の方三百里
の長城とて長き土塀あり其高さ二丈余誇り山と
越へ三百里の長さに及べり当時は国乱れて修覆もなく崩れたれ

ども険しき土地ととて西洋の人ハ拓き見ぬまゝなり　此城ハ二千年

前秦の始皇帝が胡(えびす)を防ぐため築きしものなり

今より二千二百年前の支那の事にて其人皆々学者なりけ

人も多く英傑の君も後々に至りて其政ハ西洋に倍しなから

人のことを東夷とて見下しなり

支那の政事の立方ハ西洋の法とは同で「ですぽちっく」といふものにて

唯上なる人の思ひ通りにするを政とし世中の人皆従ひ

少しも人の相性によりて取扱前々勝めハ一寸のがれと只苦しまれ

支那を見のみを思ひ遂る利害の海をも考へず

言語も是非年中英吉利と争ひしとき償金と相払ひ上に

香港の島を英吉利に与へ広東(カントン)、廈門(アモイ)、福州(フーチウ)、寧波(ニンポー)［又作甯］、上海(シヤンハイ)の港を

交易場と定められ居り　此所と英吉利人が住む所とて

○前印度と後印度とハ恒河(ガンジス)を以て界とす　此河の畔

に有る都を始め其地を以て歎かはしき事の甚だ残る多年政方より

本国の人千万人の難儀せしと云ふ

後印度のことを西洋人は「いんどちな」と云ひ大抵は英吉利

領分なり　唯其内の方ハ独立国と見へ其の支配をうけざる国の二三ありけり

のち前印度と西の方ハ英吉利の支配なり

満剌加(まらか)の南の端に新嘉坡(しんがぽうる)と云ふ島あり　英吉利の港にて諸国

の船の出入多けり

後印度の南の端にも西蘭(せいろん)と云ふ島あり同じく英領にてよき港あり

此島ハ新近誕生の地なりと云ふ

其外の産物ハ桟木米麦粉麺葡萄(ぶだう)棗麻藍烟草胡椒阿片等多く
琥珀珊瑚の類也。又地ハ寒暑共ニ甚しく気候も穏ならず。殊ニ険
しき荒野多し。獣類ハ獅子犀象虎豹など多し。大蛇蜈蚣(むかで)など
も多く居る由なり

○暹羅(しやむ)ハ四五百年前より元朝人来りて開き居たりしが後ニ
至りてハ皇帝の力ひそかニ衰へ其後ハ支那ニもいふ事ありけり
或年千八百十六年頃千八百二十八年ニ一度英吉利と戦ひ其後を
も絶へて居たるが其後土地を失ひ今日ニてハ英吉利と交ハりて英の支配を受け
或国を離れたりといへり

○亜比尼亜(あびしにや)ハ大古より夷狄の国なりしが後ニ漢土の人来りて住み其後ハ気候
ハ温ニして穀物も多く作れども民ハ怠惰なりと聞く
長老ありて是を治む。人民ハ黒人ニて其の頭髪ハ縮毛なり。獣類ハ獅子象ニて殊ニ勝れたるを
びやこの馬といふ。又此の国ハ昔より世界中の名馬ありと風俗
ハ甚だ野蛮なる者多く又人を殺して食ふ事もありと云へり
勝利を得たる者ハ首を飾りて誉とせり

○土耳古(とるこ)の領地ハ欧羅巴と亜細亜との二大洲ニ跨り地中海を隔てて
その東方を以て界とせり。亜細亜の方ニ在る地を亜細亜土耳古と
云ひ欧羅巴の方ニ在るを欧羅巴土耳古といふ。都府ハ
土耳古の旧都ニて其の後其地の領分ニ属し繁昌なり

○亜刺比亜(あらびや)ハ亜細亜と亜非利加との境ニ在りて其の東ハ二大洲の
界ニ在る国なり。其の北ハ波斯(はるしや)ニ接し西ハ紅海ニ面し南ハ大洋ニ臨む。其の中の代を聞
ハ其の人種の大半ハ牛羊などの如く草を追ひて住む。

其国ハ土地広々なれども人の通ひたる人ハ稀と云
ところ又其山の高さ金銀の出る多く其国より蛮人
と交易して貴しく金を取出して其国の産物ハ欧羅巴より黄金
地の産物ハ象牙其外種々の産物多く貿易して
其港を「べいとろぱうろ」と云ふ東の方ハ高山の
亜墨利加の北東の海上より近し
昔此の海岸ハ昔より地勢を広くすることを...ハ又満刺加の
地をさして各々...の兵を以て...ハ大なる
英吉利と云ふ是も通商の便利と...なり

阿非利加の事

阿非利加州の広さハ八千二百九十万里男女人の数六千二百万坪の方ならん歟

羅巴人の種とも異にて其像ハ大抵黒奴(くろんぼ)にて風俗すこぶる野卑(やひ)なり故に土地を以て業
と為し其教の何れの者も弱き者を苦しめ風
俗を常の...となせり
阿非利加ハ実に熱帯に在りて其地...亜細亜州ハ地続きにて...
...の地続...の地峡(ちくす)とて...
又四方ハ...人の...
...
...
と...地中海...
日衛士(えじぷと)...
...

おほよその人ハ大形にして若年の輝を見せたり
その気ハ温和にして四時ともに春のごとく寒暑といふものハ更に
露の事ハ心得ハ拘らず居所を定め人の往来ハ自在にして居所ハ米麦
絲桐等の類あり
衛士府ハ古き寺あり名ハ四弥陀山といふ寺あり其の跡も大造なる事も
の多し比羅(びらこ)びでハ天の数も六七十計りあり最も大ひなるものハ其文字
といふ通り凡そ四百年斗人世の事を伝へて二千年以前の墓碑(ぼひ)
を遺したるものなりと
○信雅(かびや)ハ衛士府都の都なり阿弥志仁屋(あびしおや)ハ物産豊かなり此辺の方
「ひかをたまはれ」といひて挨拶いふ人多く歌の如し
○麻田糟輕(すぶかる)ハ文化年中より此所の治世に係り徐々と結び微子凡俗

此の名ハ武をもつて栄えたりしが今より凡そ千年前に良多馬(らじま)と云ふ王妃(きさき)に
妻君となれり其の中大紀の世となり一時ハ名ある人をも残らず退(ぞ)
けられて後ハ其の家の名を立てたる人もなかりしを以て
勝れたる其の盛んなる事を意へしかし今ハ落ちの勝劣をはかりし所なる
の都と棚奈龍(なかまりう)といふ所あり其花の紀も所々に
○赤坂等の地ハ多く和蘭の法を以て行ひしが六年以来より英吉利
の支配となり夫より和蘭人の住居赤坂港の名と「け
いぷたうん」といふ英貨弊名し居所も多し南の方喜天多(かつうえと)地方の
名を伝へたる河流の人ハ其の先に人家の内の下等なるもの
○銀名図(ずんる)ハ二つに分れ南の方を下坂名といひ北の方を上坂名と云ふ
二つの界に「ぶいせず」といふ大河あり上坂名ハ英吉利和蘭等の

領分ありて土地の産物並名産は椰子の実の酒などを積出せり 下邦名は葡萄牙の領分なりしが今は獅子多く出て人を害する事多き
ところなり

○古来阿非利加州は何れも風俗悪しくて人を売買することを行ふ これを「すれいぶ」と云ひ「すれいぶ」とは生涯買切の奴隷の人といふことなり 亜米利加などは別して此の人を買込て田畑の耕作に用ひて牛馬同様に扱ひ
風なりしが心ある人はこれを憐みを救んとする者も亦多し 即ち
利部利亜国は亜米利加より志ある人の中会して兼て建てたり 近来はこれがため人の売買も大に減じたるべし

○蔡孫子の港丹緒路は波部良多の瀬戸を隔て西班牙国と
対岸なり

○阿爾世里亜は乱暴強悪にして土民賊業をなして蔡孫子と共に
此国都は海辺より小高き山の麓に向て風景よし 四五十年前は海賊
海賊多く諸国の船を悩ませしが先年亜米利加の軍艦に打れ為に
阿爾世里亜を攻て六方「ふらんす」の領となしてあり

○都仁須 的里波里等の諸国の内にて都仁須の人はよく農業を勤め
近世の人は毛織錦綢子等の器を織出し的里波里の人は
米と麦を貪まで都て亜比屋を通り阿非利加の南の岸は東との交易多き如
くなり

○阿非利加の内地は西洋人の往来もいまだ委しく分らず 越度比屋
どの人は前にも教へなくして人情なく 粗野「はるばり」といへる黒奴は人
を殺て肉を食ふなり

砂漠の内も稀にハ水草の茂りたる處あり是ハ大海に嶋あるが
如し往来の人ハ此の草を駱駝の飼料にもちひ人の食料穀
菓月の用意をふくろにいれて駱駝にのせて水ハ皮囊に入
貯へ十日路も行て漸く泉(いづみ)に逢ふ道中にてあれバ飲水の絶
なくて叶ひ難きことなり或ハ幾百年の昔往来の人二千人駱
駝を引て砂漠を渡りしに水の行つまりて飢渇にせまり
て残らず渇死(かつし)せしことありしと
○摩洛哥(まろつこ)ハ小国なれども山水の風景宜しく産物ハ葡萄酒を多く出す氣
候ハ美麗なれども大抵ハ砂漠にて南人ハ其の春草を育す加奈利(かなりや)島
ハ西班牙(いすぱにや)の領分なる事の掛ハ大抵摩洛哥に同じ
○新都(しんと)へれなハ英吉利の領分なり千八百十五年即ち我文化十二
年の頃佛蘭西の帝第一世「なぽれおん」和阿戸呂(わあとろう)の戦に英
吉利の將軍「うえりんとん」と戦ひて敗れ此の嶋に流されて生涯此
地にありしかど其の後の佛蘭西の将軍(?)終られけり
「なぽれおん」と云ふ人ハ此島に流され千八百四十年
も罪人の名を雪がしむ千八百四十年佛蘭西の人の心頼みにて大遊なり
紀武して其の国の都巴理斯(ぱりす)へ改葬なり

欧羅巴洲の事

欧羅巴の人数ハ二億六千二百万人其の内十分の九ハ白人の種類にて南
方ハ黒白相混じたる人種も有り又北の方ハ亜細亜の種類の蒙古人
の種に属して顔色白からぬものあり
此の時欧羅巴洲中の国々大小四十九国も有り公国も有り帝国ハ

唯魯西亜仏蘭西墺地利(おうすとりや)の三ヶ国のミ土爾古(とるこ)も或ハ帝国と称すれども
何れも其他の国〻ハ風俗も違ひ列国の交りも英吉利ハ西国の中にて[illegible]
の役にて其後の形勢ハ兵力の強き[illegible]第一とも称すへし

当時帝王の名　魯西亜帝第二世「あれきさんどる」

仏蘭西帝第三世「なぽれおん」　墺地利(おうすとりや)帝　「ふらんしせふ」

英吉利女王　「びくとりや」

当時諸国ハ文化世界第一とて[illegible]往古ハ未開洋
[illegible]中古ハ封建の世にて文武を重んじ
下武士の威光強く[illegible]人民の難儀する事も多かりしが二三
百年以来学問の道開け[illegible]人の生計も繁昌する様に学問
諸芸を貴びて力を尽くし[illegible]

今日の有様に至りしハ全く[illegible]の風俗よりなれる所なり開化
[illegible]の顕[illegible]の繁昌も[illegible]
こそ[illegible]の如し[illegible]世の中の大盛を知るべし
さて[illegible]の文字を[illegible]
人[illegible]「いぎりす」[illegible]「べるしや」の如し
[illegible]の人ハ[illegible]
○英吉利の都ハ[illegible]
[illegible]中　倫敦(ろんどん)の[illegible]英吉利の[illegible]
[illegible]一里四方[illegible]
の[illegible]
数一[illegible]人[illegible]

諸州の外にも大都会の数多あり「まんちすたア」「びるみんがむ」蘇格
蘭の都なる「ゑぢんばら」阿尓蘭の都に「どぶりん」等何れも繁昌なる
市中なり
英吉利ハ世界第一の富貴繁昌の国なれバ諸方の船の出入して港の賑
しき事ハいふまでもなく国中の往来も甚だ便利なり火車蒸気船ハ陸
らしくもがねを以て人の目をおどろかす蒸気車と云ふものの作りて是れハ半
も用ひず唯蒸気の仕掛にて走る車なり其速きこと実に人の目を
驚かし大抵一時に三十里も走る故茶の湯を沸さぬ間に一京を往
返るなど又傳信機といふものの術これハ百里も千里も針金を引張て其
両端に「ゑれきてる」といふものの仕掛を設け瞬く間に数千里の遠方へ
知らして緩急の事を報知するなり尾崎と巌窟を蒸焼にして其気を
りて地壌燈の代に用ふるなり傳信機の仕掛ハ英吉利より始まれど
西洋諸国皆行はれて人の便利を達し其内すこし趣を相なれど英吉
利ハ其の最も用ひざる事ハあらざる方なし草鞋をもちて旅中を
歩むもなく何れも車にて其の中を行くなり
英吉利の海軍ハ世界第一にして軍艦の数千艘に近し諸所の地に備へ
而も諸艦の要所に至り自国の人を保護して他の国を防ぐなり世界
中交易の行ハるゝ場所にハ英人の威光最も盛なり
○佛蘭西ハ欧羅巴中の都とも称すべき程の国にて他国よりも学術一体花美
なる風俗にて人の大気鋭くして言語も勉め学術多く巴里斯の大学
校にて世界に名ある学問所にして其富の集まる所なり
虎西加島の誕ハ佛蘭西の皇帝中一世「奈破崙」の誕生せし地なり

評判高し李偉（ろぶれとん）と云人ありしが千七百九十年代の末に
仏国より伊太利迄大乱起りその世に用ひられて陸軍の隊長となり
生来智勇兼備の英雄ゆへ年二十六才の時伊太里を攻取り翌年ハ
埃地利国を伐ち向ふ所天下に敵なし千八百四年終に仏
蘭西帝の位に即き威名を輝かし欧羅巴洲中に連り魯西亜英吉利のみ
従はざりしに仏蘭西の勢ひ強かりしが千八百十二年五十万
の大兵を率ひて魯西亜を攻め大雪の為に敗れて其後ハ
威勢を落し遂に「おんせれな」の嶋に流されたり
今の仏蘭西帝ハ其一世「ぼなぱると」の甥にて三世「ぼなぱるとん」と云
此君も英雄の名誉ありと東ハ魯西亜を攻め西ハ英吉利と和睦せり
これを恐るゝなり

○西班牙（いすぱにや）ハ昔より阿非利加の人多く来りて国中に住み又学術も盛なりしが東ハ
て学術も盛なりしが今ハ衰へて英吉利などの後となりて
の人ハ骨格よく勇気ハあれども都下に勤る心なく唯気儘にて
して生計の道を励まざる風俗なり

○西班牙の都を「まどりと」と云

○葡萄牙（ほるとがる）も昔日ハ盛なりしが航海を勤め千四百九十七年の

葡萄牙の都ハ「りすぼん」と云

比葡萄牙の人「ばすこでがま」と云航海者初めて東印度へ渡る道筋を見出したり
葡萄牙の人「ばすこでがま」と云航海者ありて人の未だ知らざる航海を開く
十二年を経てこれも「めんでぴんと」と云葡萄牙の人なり

○地中海の口ハ「じぶらるたる」の瀬戸一方なれども此瀬戸ハ深く海の底
迄の外まで至る英人の台場を
築て独り一方口を守る袋の口を締めて其紐を持つが如し

地中海に「ジブラルタル」の瀬戸あり丸太をも通る程ありてこれも英領なりこの要
地の港又ハ「ジブラルタル」と号し英人ハ此二箇所の要害をもて地中海
に威を振ひ世界の咽喉(のんど)押て背をおさへるの勢なり
○瑞西(すいす)国も伊太里の北方にあり江土六国とて高き一万八千尺余
りと云ふ一路高地の名山なり
伊太里の南の方にハ山坂多く北の方ハ平地多し気候も南ハ温かにし
て北ハ寒し国中の人別二千万人余都を「ローマ」と云ふ名高き所なり
あり元来伊太里ハ開け始めも早く古代の書画彫刻多しとて
諸国の便りも良く近来ハ大に衰へたれども名所旧跡多く旅人と云ふ「いとる」ことなし
ろ高教ハ国と雖もなきなり
○希臘(ぎりしあ)ハ久しく土耳古(とるこ)の支配となりしが人民其の難苦に堪へかねて快
復を謀り他国の人も同情を寄せてこれを助け千八百二十七年の頃より独立
の基を開きて遂に一国の独立を致したり国中の人口百万人都の
名を亜典(あぜんす)と云ふ
墺地利の都 ウイーン 字維也納
○墺地利(をうすとりや)の人口ハ三千五百万人余而も廣し中国の西の方なる国にて古く
欧羅巴中に独逸帝と称したるハ即ち墺地利帝のことなり昔より西洋の教
所にて中欧大に富み人も多く名人出づるハ文教厚く文学の盛なるありて学
問を好むもの多し
普魯士の都「べるりん」
○普魯士(ぷろしや)ハ欧羅巴北方国の一にして近年の騒乱より大国となり千
八百年の頃人口千百万人の国なりしが後に強く国を広めて墺地利と戦ひ勝利を得て
ら大いに強大となり兵を鍛へ二十年来墺地利と戦ひて勝利をえて今
日に至り一時の内に「なポレヲン」と戦ひ二十七箇国を滅ぼして其地を兼せて来。

一千八百万の人口倍して二千二百万余の数に上ぼり新たに戦争する日と
勢して僅に半日ばかりにて勇敢西岸を攻め七〇日の戦と呼ぶ
り其遠く仰ぎてもあらざるべし今の世の中なり

○瑞西（すいつつる）の都を「べるん」と云ふ時計製造の名所なり此所は山高くして人皆質朴
倹約且つ勇気あれども小国なれども外国の侮慢を受けず

○和蘭の人別は僅に三百万なれども諸方へ出張の船を持つ事は西の人
皆海軍を恐るる強さ我の威光を示す所とし「あむすてるだむ」市中
手広なれども繁花なる国の中一の交易場は「ろっとるだむ」と云ふ港なり

○白耳義（べるぎい）は和蘭より分れたる国なれども全体の土地は和蘭よりも広く
工商農業の稼しておしも不毛の地なし諸人皆勉強し作る物
製造物多し小国なれども其国の風なり

○昔日嗹国（でんまく）は名高き強国にて其頃までは諸方に兵威の働き多くして佐
え子年日耳曼（ぜるまん）と戦ひ大敗して領地も分割しかれども気象敢
て遂に和睦して今の都「かるるえん」近傍の地を失ひ西の人別百十万人
と云ふ

瑞典の都
すとくほるむ
須徳保留武

○瑞典（すゑいでん）、瑙威（のるうゑい）は一政府の支配なれども両国各自に法律あり瑞典王は毎
年数箇月の間必ず瑙威に来りて政を取る瑞典は英
気車の便かし強国なりしは近年第の百姓よりも交易を営むもの富次
ぐ人を兵と為し和を通じ国法を

○二百年前までは魯西亜と山国まで五十万の田舎なれども皆開け
其人気基くして殺伐なる風俗なりしが千六百八十代の末（元禄年中の比）平土（ぺいと）
首帝と云ふ英明の君出て一時に西と交際し英仏和蘭等の如き文

北の王の風をまなび学校を設け海軍を興し内をも治め外を攻め取り
己が国を並びなき一大国の基を開き今日に至るまで
威名を世界中に轟かせり
魯西亜の都はもと「もすこう」と云ひしが平土留帝の時に小河の辺に
「新子都」を開きこれを平土留保留府（ぺいとるぶるふ）と名付け奈和（ねわ）と云ふ河の畔に移り
て当時は欧羅巴州中並びなき大都会となれり但し冬は氷に閉ざし
く冬の間は河に氷りて通路なれども此の地を往来すべし
魯西亜は他の欧羅巴と違ひ広大な領地と云ふ諸国の土地を占有し属
一人の思ひ通りに治むる事を欲し風俗も治まりての情合も亦通ぜずして
国中に不平を抱く者多くあれども未だ病の一事に依りて自国の教を守
ことなく只武備を拡げ力の限りを尽くさんと外国へ交を断ち

さて欧羅巴諸州の大兵悉く攻めて「せばすとぽる」と云ふ都を
攻めしことあれども数年守りて防戦なりしとぞ
「かちさらう」は魯西亜の西北にて「ぺいとるぶるぐ」の東南百里余りの
要害の土地にて旧く一つの都なり後に繁華なる都となりて千
八百十二年「なぽれをん」の大兵攻め入りし時魯人は自ら市中を焼払
ひたれども一旦降参して却て後に再び市中をも復興して
今代の都あり二万二千人余り千六百「とん」即ち我が四万二千六百六十貫
目余りなれば二万八千石余りの重みあり

北亜米利加州

千四百年代の末に伊太里亜の古倫武士（ころんぶす）と云ふ人ある年の冬
き家の者なりしが航海の術を好み志を立て人を集めて自ら志を立て

土地の版図は北亜米利加の方に在る[illegible]の土地なれば其の方[illegible]地方なり
べしといふ説を立て西班牙の王子「いさべら」の助を得て船二艘を借りて西の方を
さして来たりしに果して陸地を発見したり此は千四百九十二年即ち我明
応元年なりこれより欧羅巴諸国の人競て渡来して此地を開き
し又[illegible]人つと移住して新地を開き[illegible]諸府の[illegible]間も多し
土地の形は中にて地峡の[illegible]は之れを南北二大洲に分ち又南北亜米利加
と称し是を四大洲といひ亜米利加を新世界ともいふ
○魯西亜領の亜米利加は[illegible]土地の広きのみにて産物も少なき故に慶応三
年合衆国の政府七百二十万「どるら」の金を以て此地を買ひ取り
当時は合衆国の領分となりて亜米利加の北方に住める土人は「えす
きもう」といふ人種にて身の長短く顔面の[illegible]字も多く人[illegible]

魚を食ひて冬は雪穴に住居して夏は[illegible]
居して穴居をなすもあり
「えすきもう」の外に又「いんぢやん」といふ人種あり即ち亜米利加の土人種と
いふものにて昔「ころんぶす」が亜米利加を発見せし時より住居せる者
にて発開以来の亜米利加人多くこれを殺伐して今は其の数も少し
め家もなく山谷を彷徨し弓矢を以て獣を殺し肉を食ひ皮を衣て生涯
を送る者なり欧羅巴人の亜米利加に移住してより此人種を追払ひ部落の
地へ追ひ遣りて今は其の数も減少せり

金田の部 かりふおるにや 加利福尼

○金田(かりふ)の地は先に墨西哥[illegible]より得たる地なりしが[illegible]の頃には
気候[illegible]諸国の人[illegible]
従て此地も[illegible]新開の地[illegible]

政府たるべし云々

○前にも云へる如く亜米利加の国は元より独立の政府ありて家を建
し者は百年ばかりの事なり人と云ふも長く住し今の合衆国の地は英吉利
の属国にして人の産業も始めをする時分の政府より立たる云々を
しく政令の時人百姓をその手に任して人民其他の事を取って負担を
引きて住む男は男一人分女は女一人分他人の力をはかりて亦他人より
助けられしの理なし今後独立して各自の家業を営み其の中にて出せる
一年の分を納めて自ら一分を出すだけの
政府へ納め政府より他の事を為し謂れもなく上を立ると云ふ
と為して下々の家業を助くる事ならず人の物を奪ひて上の用を遂
人と云ふ可き所の挙動なりとて西洋政府の事を言ひて承知し

是に依て独立の旗揚を為せしは千七百七十五年なり我安永四年
なり其の初めより軍務を統る者は威光を以て「わしんとん」と云へる者なり英吉利
加人は国より必死の覚悟を定め老若男女独立の師と為して仮令悉く命
にて祥様を捨て帝より許す可き様は鋭卿と致して押より独立ならざるの勢
なれば中にて読係の扱出来千七百七十六年四月十四日「ゆうきしんとん」と云ふ
所の小戦を始て兵を減し西月丁に「ぶんけ」山の戦争ありて一五
の騒乱となり「わしんとん」を挙して総大将と為し翌年七月四日を以て
十三州の檄文を布告して人気を振ひ合衆の戦争或いは克ち或いは
負け千辛万苦せしを終に英国の兵を退けし人の戦ひ王の恩を忘れ遂て終に
なりて英吉利と和睦結び独立と為して共和政府を建てて「わしんとん」を大
統領の職に任じて一方の為にと云ふべし

当今亜米利加で師の記するに諸一人として注意なく国中の人ハ一般に
福とを重ね婦人ハ [illegible] ても気象を強くなることなれば英吉利より
[illegible] 帝国の増ても [illegible] となるべし既に戦争の記する所の
ことなり「ガフエーム」と [illegible] 各の日本の子供太郎も之を
集め家を [illegible] 遊戯とし [illegible] 戯れなど [illegible] 帝国の兵来
り何心なくこれを好むべし [illegible] 勇気を持って英吉利
の将軍「げいじ」の [illegible] を [illegible] 将軍へ [illegible] ことあるを挑げし事
軍隊ご [illegible] も [illegible] 敵へられて [illegible] やといふ [illegible]
とくする事 [illegible] 軍を [illegible] つけ [illegible] 人の [illegible] 多けて [illegible] 若
くあれ [illegible] 将軍へ [illegible] も [illegible] 勇気 [illegible] 対し [illegible] とし
是は [illegible] 兵の人て [illegible] の [illegible] 遊戯を [illegible]

若し此の如きを [illegible] 人の楽と [illegible] 乱暴を止め [illegible] 答
[illegible] 気を強く人 [illegible] 諸の人へ [illegible] 気
[illegible] の [illegible] の [illegible] も [illegible] 家を [illegible] 説 [illegible] 及ばず [illegible]
[illegible] 大将軍の [illegible] を [illegible] 恐れ [illegible] も
[illegible] 説 [illegible] 「げいじ」も [illegible] 気象 [illegible] 心し [illegible] 亜米利加
の [illegible] の風 [illegible] 勇ましき心 [illegible] 兵 [illegible]
仕 [illegible] の [illegible] を [illegible]
合衆国の [illegible] 「ガフエーム」「ぶひらでるひや」 [illegible] も
[illegible] の [illegible] 技芸 [illegible] 製造 [illegible] の [illegible]
[illegible] 英吉利 [illegible] 米 [illegible] 綿 [illegible]
[illegible] 人を [illegible] 農業を励 [illegible]

○中亜米利加の諸国ハ元ハ西班牙の所属なりしが千八百二十一年西班牙の手を
離れて独立の国となり其の後墨西哥に属し二年を経て独立の政府となり其後
ハ各国互に分れて各政府を建てり産物ハ金銀銅鉄珈琲砂糖綿など
○古倫武(ころんぶす)は武士なり亜米利加を発明せし人の始祖にて地球儀を
初めて作りし人なり其国の辺境に行き伊須巴尼亜(いすぱにや)人と共に亜米利加の所の少年より事を学び
若大陸の西岸より遥かに海の彼方の島の中に向ふ事あるべしと考へ
全く地ハ円きものなる事を悟り其の理を信じて西の方を航行し今を
凡四百年前に至りて始て亜米利加を見出し西班牙の王に告げて
の地続きと思ひしことありし其の後多くの人の跡一方にて其の地を究め
りし彼の船を帆を上げて大西洋に出でて其の名を広げしも大いに功ありといふべし
亜米利加の陸の始て知れしハ一千年前の事にて初めて此の地に行きしとなれども其の地味

「かるたかや」の金山箇より世界中一なりしが今其の後は大に金銀銅鉄
の類多く産する出し何れも蒸気仕掛の道具を用て行ふとなし其国の金山と
いふべく思はるゝ
○墨西哥(めきしこ)は先に西班牙(いすぱにや)の所属なりしが千八百二十一年独立して其国政府
を建てり千八百六十四年仏蘭西に攻滅され仏の名代として「まきしみりあん」
といふ人を立て王帝となせしが僅二年にして慶応三卯年国中みだれ
て新帝を殺しけり
「めきしこ」より出る金銀の中にて最も多きは銀なり東洋諸国へ之を通用銀と
称し日本にて洋銀と唱ふるものは「めきしこ」の「どるら」なり
墨西哥(めきしこ)の首府を墨西哥(めきしこ)といふて其所は繁昌の都なれども米国に及ばず一大都会
なり

沢て居り分ち人口合せて四万人此内六分の一ハ欧羅巴の人種にて余
ハ黒人なり土地ハ甚だ狭しけれども何れも都会にて土地肥えて産物多く余り
物産をハ外国ハ黒人奴隷を用ひて此国の藩に多く砂糖煙草の類を産し又巴奈馬の
地峡の中にハ西ひろく其都と巴奈馬の港なり其港を以て通商の湊と成し
海ハ大西洋の嶺をうけて東西の人民二種に分れて此地に住居す
る事甚だ不便なりと云ふ

南亜米利加州の中

南亜米利加州の人口ハ凡そ一千七百万人にて其内ハ欧羅巴人
に属し其余ハ土人にて古来の風俗を守り其中にハ欧羅巴人の種ある者も
住して其土地の物産を以て各国の地なり

○古倫比亜(こうんびや)ハ東を以て界を分ち巴奈馬(でぶと)を中の一都とし其外ハ都会(とこう)

西の方ハ巴奈馬(でぶと)を以て地峡の境なり其峡の南ハ巴奈馬の地峡ハ
僅か二十里なれども山険しくして其の割に土地広く其の東ハ海に
○秘魯ハ其の都の下に南ハ新く其の地中に在り部(べね)秘魯(ぢう)と隣りて其
都を並て此の地震多き国の海辺住し其都を「カヤカヤ」と云ふ千八百
十二年の大地震に残らず崩れて其後ハ新たに此地を建てたり其地ハ南亜米利加州の内地震多き地
なり

○武良尻(ぶらじり)ハもと葡萄牙の領分なりしが後に独立し千八百二十二年より
帝を立て此国を南亜米利加州の内にて第一の大国なりと称し其政事を定めて其都の広
く此地の土産ハ金銀(ぜうきん)及び陽石(まちつち)の類を産し其国の都ハ三万人の住居
の名を「リオデジャネイロ」と云ひ其都の広さ武良尻の都にて相応に「こつひい」
杉木等の類多く産す其内「だいやもんど」ハ此国の名産にて外国の土

地ハ廣く候ども人の數少なく内地の方ハいまだ開けずして野蠻無識也

とぞ

保里備屋（ぼりびや）、巴羅貝（ぱらぐあい）の諸國も皆合衆政府なれども土地いまだ開けず國より

英吉利の海軍も往來して従属するも山陵の多き頗る荒涼として延遅

ありては大抵人家の多きを用ひ或ハ金山有て鉱の稼ぎ業にて従事する者あり亦各

の職務の如し風俗人ハ強力なる者なれども日用の器物ハ粗にして山林の産物ハ或

良鹿の毛皮等西班牙商人が販買すれども其精なる者ハ少なく深山の奥には猿猴群集して

ありて猛獣の類も多く又獅子の一種あり野獣猛悪群猿等の呼びハ極めて恐ろしき心を

悍ましむ天然の形勢なり人工を藉らざるの地なれバ其の産物も少なく

なし只静にして太古の如しといへども其の土地を開くに嫌なく人力を盡さん

の地ハ大なる蟒蛇（うはばみ）有りて折々人を害すと恐るべきことなり

○大の國ハ南の端に離れて海を隔て大山ありて相對し名付けしとぞ

岬の名を「ホーン」といふ或ハ地理家の説に鹿（ひ）の若年の説に依りて此名

の土人ハ風俗野鄙にして人の肉を食ふ者もあり其の鐵鏡などの時ハ大なる

猶其の他の者も少しく海豹の肉を食するとぞ

○地經（ちけい）も西班牙（すぺいん）の領なりしが千八百十七年以来独立して共和政府と為

りと爾ハ治まらず政を改革して今ありて終に八百四十年にいたり西班牙

より自主を唱へけれども遂に許されず首都をさんちやごと

いふ海岸より四里ばかりの處に在りて人民ハ英吉利の諸を傳へて貿易

便利を達せり

○秘露（ぺいりう）ハ千八百二十四年「いやくちよ」の一戦にて西班牙の手を離れ獨立の

共和政府となり首府の名を「りま」といふ海岸より一里の所にあり離れて「く

ずこしといへる都合にて時節も宜しく[illegible]の内には

其名なり　平柳の[illegible]「ちんちや」「ろざりお」などいへる小[illegible]時々は鞍

し候ものは集るにて[illegible]

[illegible]の壽[illegible]

[illegible]人の[illegible]

すなはち[illegible]一は[illegible]

大[illegible]例の事

大[illegible]の[illegible]名目[illegible]の[illegible]

[illegible]人は二年[illegible]の[illegible]

[illegible]胡椒「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]

[illegible]新[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]近[illegible]西[illegible]

[illegible]「[illegible]」[illegible]人は[illegible]

[illegible]人の[illegible]

風[illegible]人の[illegible]

[illegible]のもの[illegible]

○[illegible]の[illegible]は「[illegible]」[illegible]ドや[illegible]「[illegible]」[illegible]

三[illegible]例の[illegible]十年の[illegible]

和蘭の人[illegible]新[illegible]和蘭[illegible]

[illegible]十七[illegible]

[illegible]の[illegible]「かぴたん」[illegible]

[illegible]人[illegible]二人の

種も殖えて英吉利の領分となりしより土地の広大なること一路欧羅巴洲
と云ふ所にて五大洲の一なりと故に之を以て名付くべし其南あの一
大島と云ふものも有り
澳太利亜は土地の割合にして人の数わずか百四万人の内土人は僅に十万人
其余は皆欧羅巴人の種なり南東の海岸は土地繁昌なり志
度仁の港は東海岸にて繁昌なり南の方に女留保留と云ふ都府あり近年人の
群がり殊にこの頃は金山ある故益繁昌なるべし
○新地伊蘭土も英吉利の領分なり土地の模様は「いたりや」に
同じ土人は勇猛にて人を喰ふものと云ふ風俗なりしが今は英吉利と其他の
異なる所以は地球の図にして裏る理を弁へて合点すべし
○山土違地は千七百七十八年「かぴたんこつく」の見出せし島にて人口は

此諸島の人口総計すれば人の住み居る島の数は凡風諸島の満る「さんど
いちとん」大の島なりて大小数多しといへども布袋少なしといへ共ども
少なし

世界国尽附録

地理学の総論

地理学は西洋の語にて「ぜおがらひい」と云ふ「ぜお」とは地の義なり「が
らひい」とは書と云ふ義なり故に地理学は地球上のことを書記し地球の外面を
包む衆生の事までも説き明かしたる学問なり
地理学を三箇条に分ちて其一箇条を「まてまちかる・ぜおがらひい」と

天文の地学とハ其義なり此箇条にてハ地球を一個の遊星と見な
做し他の遊星と共ニ大陽の周圍を廻て四時寒暑の変化を起すことなど
のことを論ずまた二箇条とハ「ひしかる・ぢよがらひい」即ち自然の地学といふ
義なり此箇条にてハ海陸山川の区別草木禽獣の産物並びに暑寒晴雨風
雨雲霧の模様などを論ず又三箇条とハ「ぽりちかる・ぢよがらひい」といふ
人事の地学と云ふ義なり此箇条にてハ人種の強弱の不同風俗政体の
異同文学技藝の巧拙文明開化の前後などを論ず

天文の地学

此世界も一個の遊星なり遊星とハ圓き物にて空中に浮び日輪の周圍を
廻りて日の温気と光りとを受るものなり此類の遊星数多あ
れども其大なるものハ唯八個のミ即ち地球も其内の一つなり地球の形

之証拠ハ船に乗て大洋より陸を眺る時ハ山の頂のミを見て麓の方ハ
陸へ近づくに従ひ麓の低き処も見ゆべし又地球の影の月ニ映ずる時ハ
月食とて其の形必ず圓し此類の證拠あれども爰に略す
地球の周圍ハ一万二千五百里余なり南北を軸にして西より東へ転じ
十二時の間に一廻りをなすこれを一晝夜とす即ち地球の自転なり新く
自ら転ずるなり三百六十五日三時の間に日輪の周圍を一廻りして元
の処に帰るこれを一年と云ふ即ち地球の公転なり新く日輪の周圍
を転廻するなり或ハこれに近づき或ハこれに遠ざかり寒暑を生ずとも遠
近の差にハあらず地軸の斜なるに由て四季の変化をなせば爰に生ぜ
候の寒暑と異にして四時相反し日本などの如き赤道以北の国の夏ハ
「おすとらりや」等の如き赤道以南の国の冬なり故に又南亜米利加

の前に北極の出の所は極ミ高くなりて卯したまふも 宗は宗左の間に位せり
方を相反たり 西方は東西南北より正なる一人の子緒たるを
いはば左の手にて日の出る方を指さし その方東なり 右の手は日の入る方を
指さしその方西なり 前の向ふ方は北にして 背の方は南なり この四の方角を
羅針盤の針点と名づく 羅針盤は航海に用ひて つかさどる 四方の
ことを見ては東西南北のみならず みな方を定めしこれを盤面に記し
その方角を以て船の道筋を定むるものなり
地球の面へ縦横に線を引き 南北に直なる線を子午線と名づけ 東西に直なる
線を平行線と云ふ 地球の状は勿論 新たに縦横の直なる線の状は
くして輪のかたちの如くなれば 輪をなせる所 子午にわたりてこれを度と名づけ 東西に割
りたるを経度といひ 南北に割りたるを緯度といふ 又平行線をもつて南北の緯

度を計るには平行の赤道を界として 初度と始め 緯度は地球の出る中より
北緯三十五度といへば 赤道より北の方に三十五度を隔てたるをいふなり 日本の
東州かの「かじわらや」などの地なり 南緯の方も同じ 子午線は何
れの地より始むる 緒に定まりたれども 大抵地図を製する人は 英吉利の京に属く
人はこれを始めとして 初度として東経西経の度を以て 英吉利の京
より東の方百四十度余に当るとしるし

地球儀に経度緯度を割りたる図

丁度日本国の東京なり 新「おらんど」は東経
百七十七度 南緯四十七度三十分までわたり
ども我が日本とも新「おらんど」の人を英吉利
の人に皇のことに居住せしてある度をこれを知るなり
地球の周囲は英の里法にて二万五千里にわたり 日本の里にてあれば一万

年中寒さ強きこれとても寒き事は平均なる寒暑の
差但しこれは赤道の近くを測りしものにて南北の方へ近くに従ひ經
くなりて極にいたれば何もなくなりたり
赤道より北と南へ二十三度半づつの處に線を引きこれを二至線と名け
その間は時候熱し故に熱帯と名く又南北の極より赤道の方へよりて二十
三度半づつの處に線を引きこれを極線と名くこの間は時候寒き故に寒帯
と名く[illegible]極線と二至線との間は四時
三度の寒暑往来するの間は時候強く寒暑
時ありての順序正しき故中帯と名く中帯の
人は才徳優りて氣力ありて文明開化の極

北極

南極

處に至りしものも唯此方角に住む人の諸國を取り色々變化すれば今日

赤道近き熱帯中帯の内に於て熱帯の地には草木よく生じ獅子犀
象豹虎蟒蛇などあり又或は駝鳥などいふ大なる鳥あり中帯寒帯
には絶てなきものなり寒帯の地には禽獣草木少なく人の才徳も鈍くして
且つ致す冬は白熊馴鹿等ありて寒に生ずる獣は皮厚くして毛
深し其の地の寒気を防ぐためなり

自然の地学

譬へば國の遠き處は大洋より河口の半島と二つの小島ありて右手の如く
土地四方海にて其の方へ突出たるは岬にて左手を中に出したるにて
海へ突出む處は半島にて其の根を見てあらまし地球の区別を知る地学
の大綱なと合せて見るに本篇には地球の面を分ちて一分
は陸なりこの陸地を三つに分ち亞細亞阿非利加歐羅巴と東の半球とし

は西世界といひ南北亜米利加を南の半球とし或は新世界といひ大洋洲を
赤道より一世界となし今は合せて五世界となり或はこれを五大地と名く西洋の
語に「こんちねんと」といふ廣く續きし大地といふ義なり海とは四方に海ある
大地より離れしは英吉利 錫蘭 爪哇等の如きなり
半島といふは三方海にして一方のみ大地に續きたるをいふ日本にては紀州の
海岸の如きなり
地峡とは大洲と大洲を續く處にて米洲と大洲を續く所の狭き大地をいひ
小なるは亜細亜洲と阿非利加洲を續く處に蘇士の地峡あり南北亜米利
加の界に巴奈馬の地峡あり
岬とは海に突出したる陸地をいふ阿非利加の南の端に喜望峯あり南亜米利
加の端に「かぷほるん」あり

大地の高きものを山といふ但し地学に於ては高さ千尺以上なるものを山と唱へ
千尺以下のものを岡といふ山の高さを測るには海面より起算して然るに
世界中の高き山は亜細亜の「ひまらや」山を第一とす其高さ三万尺に
近し即ち英吉利の里法にて五里余の高さなり しかれども世界の大
ひさなるに較ぶれば是にても地球の中径千六百分の一なり僅かに皺に比し
又たとへば人の面に於ける鼻の瘤の如くなり地球の大なる事思ひ知るべし
山より火を噴き烟を出すものを火山といふ世界中にこれ数多ありその内
の二は浅間の山なり
陸にして砂原にて草木生ぜざるものを沙漠といふ阿非利加の北
大部の沙漠これなり日本には沙漠なし
大洋とは外海のことなり其は世界中の海にて水の多き事を知るべからず

これを一大洋と云ふも差支へなけれども地理の便に就て五大洋
と為せり即ち太平洋阿多羅洋印度洋北極洋南極洋これなり　此篇の洋の字
を用ひしも海と記したるは唯人の見なれし字を用ひたるのみ
大洋の深さを測量したれども未だ確なる事を知らず然れども其の底に凸凹ありて陸
の山坂谷あるが如し其の最も深き処も陸の山の最も高きものに等しかるべしと
云ふ
海とは大洋より狭くして周囲を陸地にて囲まれたるものを云ふ地中海黒海の
如きこれなり
湖水は淡水の集まりたるものにて其の水は河より流れ込み或は湖の底より湧
きたるものなり又河にて出口のみ有りて海に通ず世界第一の湖水は北亜米利加の
上なり

入海とは三方に陸ありて一方のみ海に接したるものを云ふ或は之を湾とも云ふ「め
きしこ」湾又は無種の入海等これなり其の入海を狭くして船の碇泊に便なるを
港と云ふ
瀬戸とは海と海とを接ぐ狭き処を云ふ「ぢぶらるたる」の瀬戸は阿多羅海と地中
海とを接ぐ処にあり下の関の瀬戸は周防灘と玄界洋との界目にあり
陸地の低き処に流るる水を河と云ふ河の源は或は泉より或は湖水より出で
高き山の氷山の中に溜りたるものの流れ出で谷川となりて次第に集りて
河となり又合して大河をなし遂に海に入るなり南亜米利加の「あまぞん」
は世界第一の大河にして北亜米利加の「みしゝっぴい」は世界第一の長河なり河
の流れて低き処へ落るものを瀑と云ふ今北亜米利加の「ないやがら」と云ふ瀑あり高さ百六十尺世界中の名瀑なり

人間の地学

天然の地理ハ万代不易にして天地開闢の始より今日まで大抵異なることなけれど
も地球の面に生れたる人の力を以て其地面を分ち其界を定めて各住居
を定め人民共其為めに種々の区別を生し其の分ちたるもの即ち人間の地理に区
を生し世界中にあるものの如き政治の区別ハ国々の区別ハ人の作りたるもの
なれバ万代不易なるを期し難し争ふ事ありて師を起すもの有り其の境を越へて他を
奪ふもの有り威力を以て其地を押領するものあり見聞する所に至れバ其数
の変ある所以なり故に人の意を以て境界を定めたる其の界ハ必ず
しも海陸山川の地理を目的とせず或ハ緯度方の分界を定めたる条約の書
面中にのみ其界を定めたる所もあれども其実の境界を知らんとすれバ是人の作
り防ぐたるにハ大洋又ハ山川の如き地を撰て界を定むるを良とす

本編の始よりいふ如く世界中の人種を五つに分ちその容貌並に肌の色も異なれば
その各々の風俗生産の道も亦同じ様ならず
(い) 文明開化なる部分ハ市町を立て住居の処を定め安楽の家業を務め
知識を増し礼儀を重んじ職業を営むものを云ふ
(ろ) 未開なるハ住居を定めず水草を逐ふて其処を移し或ハ牛羊を飼ひ或ハ
狩猟を業として暮すものを云ふ
右二様のものを尚又細かに区別すれバ左の如し
第一を野蛮と名づく野蛮の国にてハ屋宅の設もなく衣食の作る事を知らず
ここかしこに流浪して或ハ猟をなし魚をとりて生活をなすもの之を「あらへびす」と云ふ其の土人
これより少しく進みたる者を未開の民と云ふ其の民ハ猟漁を業とし或ハ虫を喰
ひ或ハ山に生する草木の実菜の根などを食物とし其人の性質惨悪の心多

くして互に相争ひ勝つ者を尊ひ弱くして人の道を知らざる者にして人肉
を食ふものあり或は粗末なる小屋掛を作り一村の頭を
戴きて住むといへども法則なく其ふの住居を定めず農業を知
らず五穀を食ふ事を知らず魚獣の肉を喰ひて大抵裸体の者多し文
字を識る者なく文字を知らず法律を知らず礼義の道なく地面の定則に
従ふ事なく其国の風俗は無法なるもの多くして力の強き者を尊びその命に随ふ
暴虐の道なり
第二を蒙昧と云ふ渾沌の民よりも一段上なる者なれども少しく農業をせしめて蠻野荒古
又は小村の所々に住居して其種類の民は住居の定まらずして牧畜をして流る
家を結び或は家を作るといへども甚だ粗末なる小屋にて其村の形らしきものありて集
又は集合を成すといへども其の家を移すこと多し食物は牛羊の肉を食ひて乳汁
を飲み稍農業の道を学びて五穀を食ふ者もあり文字もあれども文字に代れ
ども之れを読む者は稀なり芸術は少くして粗くして道を
修むる者の工夫を知りて此の民を治むる者はただ腕力の強き者のみ「然りとて」とて家来の人を
りむくの者ならず人を敬ふとし君父として恭ひ尊びその法を守る者多
くして暴し
第三を未開又は半開と云ふ此の民の風俗は殆ど其の風俗を改めてやや文明に近かれども
りたれども未だ人智の開けしは道なく上等なる農業の道を知りて居て
各々の芸術も進んで巧みなる頭を挙げ都会を築き家居を飾り文字を学問の道を
知らず但し嫉妬の心深くして他国の人を忘れ嫌ひ外国を軽蔑し弱き
者を苦しめる風あり支那土耳古ペルシャ等の諸国は皆かくの如し
第四を文明開化と云ふ礼儀を重んじ正理を貴び人情穏かにして風俗も美しく

諸職の術は日々新にして学問の道は月々に進み農業を勤め工作を励み百般
の技藝至らざるものなく市民業を安んじて其の幸をうけ生計豊しく
自から備足せり 亜米利加合衆国 英吉利 佛蘭西 日耳曼（ぜるまん） 和蘭 瑞西（すいつる） 等の
諸国は文明開化の域に至りたるものと云ふべし

世界中に帝国あり王国あり公国あり侯国あり 或は共和政治の国あり
帝国とは帝の支配する国にて 魯西亜 墺地利（おうすとりや） 佛蘭西の如きこれなり 王国
とは王の支配する国にて 英吉利 普魯士（ぷろしや） 西班牙（いすぱにや） 和蘭の如きこれなり 公侯の国
も之に同じ 共和政治の国とは君なくして国中の人の申合せにて政をなす
事にて 亜米利加合衆国 瑞西 利比里（りべりや）の如きこれなり
国中の支配する役の人を選びて政を司らしめ 部を分ちて其命令に従ふ
名目は斯くの如しと雖も其実に於て相異なることあり

人民の多く集りて家を建て市町を成すもの是を都会と云ふ 亜米利加合衆国
にて大都会を唱ふるは「しちい」と云ひ「たうん」「ぶろおくりん」「ぶろう」
も云ふ「ほうとるいんす」等あり 都会の場所を擇ぶには商売の便利と
産物運送の便利を由てこれを定むるものなり
首府（しゅふ）或は都とは一国の政府の所在の場所を云ふ「わしんとん」は合衆国の首府なり
「ろんどん」は英吉利の首府なり
政府の体裁（ていさい）とは立君独裁の言方とて其の政治の流儀を云ふなり
其一を「もなるき」と云ふ立君の政なり 立君とは一人の君ありて一国を支配
することを云ふ 是に「い英吉利佛蘭西魯西亜等の国の如きは立君の国なり 立
君の政体を又二種に分つ 一を立律立君と云ひ 独君一人にて政を自由に
世襲国内に議事院を設けて評定を定め国中一同の約束を以て人物を選び出

年〻の経験ふ集りて法律を立て其の権を設け一人の君主とても其の権を以て社
稷を守りしかるものなる故人ぶ其の国の形勢を考へ施政は宜しく師と
説して国中一同合議を以て人を定め議事院の評議にて決して評さず故
て君の威権は甚だ弱く国を先にして君を後にするの政なれば甚だ利なる欧
羅巴各国の如きなり又一種の「モナルキ」と称して立君を以て君とも主
その君一人の権を以て政事を制し其の国の生殺も君の意のまゝにして上
たる人の意に背けば罪なき者をも殺して之を用ゐ其の国の家族を代も君の
ものなりといひ上たる人の思ふ儘を以て寄る年貢運上を取立て或は罪
ま論なく其の所を奪ふことも有りて無智無能なる者の如し君若し賢
明なる人物なれば四方を用ゐて国家も治まるべけれども若し其の子不肖なる
自然に増長して民の難儀一方ならず終には其の暴君となる

第二の政体を貴族合議と云ふ家柄の貴き人々寄集りて政事を裁判するなり
第三を共和政治と云ふ共和政治は合衆政治とて国中の人民申合せて政事を捌くなり此
共和政治の趣意は其の国に生れたる人を皆同様に門閥なしと定め政事偏り無く凡そ
人たるものは各精心を励み身の修めを貴び人々にて此精心と二通り異なることもあれども
是を人の智恵に寄るものなれば更に貴賤の隔てなく唯其の才能によつて凡て歴代の家
柄のことを口実としてたゞ物事を人の才徳次第に任するなれども若し然らずして
唯其位のみ人の上に立つ時は賤しくして政務を運ぶ事も出来ずして其の者は只だを
人々に撰ばれたる上は衆人の中を選み百姓町人の仕事を勤めて家業を
皆三ヶ年にて終りて後に金を以てこれに葉むなくしてまたいつの年にても其の上ら
れ上の人の我儘政治を覚え又は驕りあれば大に天理を犯し罪あり其の事
其の政府を立てる国中に不正なる事の行はれざるは人々の生命の危からざるなれ

を身代と号してわづかなる代金の為に其身をうり渡す事を
ろたる奴隷人とうらるゝ也故に農工商よりもその有目と称すべき
へバ下の者ハ金を排して物を買ふが如し直段ハ減せしものなし品物ハ減せ
之れを遣べき筈なり然るに代金だに済て品物をハ渡すびとなき
のこう部て其金をただ奪ひし者のなす所なれどものことを行ふて以て
の外なり富行して当然のことゝなり殊に貴賤上下歴代家柄などの類ハ甚止
めんて其身代の心を労し其身の身を衛りし他人の婦をうりだして其
を身をうり其父母妻子を養ひ其家を治め其国を養て政事を為し
ども下其のもの政事を施すとも其者の心を推て下の者を無
政府にして右の議論を採らバ政府として惑ふ事まらず人の心
同じうなる時ハ其他の名号あるが如し且天下の人民ハ万人皆

とはたふ事の為ニ身を売て其中の人其をも入れて之を遣
び遊女の年季を定めて其年限と以て彼等の年限中ハ身売の代金を
をうりしてかゝるならバ年中一日の休日を与へ
成て其外にうる所を政府として
人なしと定め一年の給金二万五千
ハ上席を下席と為し上席の者ハ六年身代下席の者ハ二十年身代
なし

世界図書游観

博品